

働く男のライフスタイル情報紙

Biz Life Style [ビズスタ関西]

2021 04

特別版

『BizLifeStyle』は東京、関西、
仙台、福岡、広島にて39万部発行
下記URLまでアクセスを。

www.biz-s.jp

広告掲載に関するお問い合わせ・申し込みは
TEL.03-6854-7001 FAX.03-6854-7005

企画・制作 / 株式会社デイルースポーツ案内広告社
〒110-0015 東京都台東区東上野4-8-1 TIXTOWER UENO 14F
© 2021 DAILY ADVERTISING AGENCY CO.,LTD



新生活を機に、「裸眼の自分」を取り戻す。ICL治療という選択。

単語の検索や前日のニュースの閲覧はもちろん、地図の利用やSNSへの投稿、写真撮影に乗換案内、そして動画鑑賞…。気がつくともスマートフォンを覗き込んでいることがさらに増えた現代のライフスタイル。こもも至近距離で小さなモニター画面を凝視するのだから、目の疲れを感じても当然のこと。昔は「テレビは「メートル離れて見なさい」と親に怒られたものだが、最近ではそのスマホ自体が閲覧時間を報告してくれる機能を搭載するという皮肉な状況も。

加えて、今般の新型「コロナウイルス」の感染拡大に伴う緊急事態宣言の発令と解除だ。突如として対応を迫られることになった「新しい生活様式」に押し流され、テレワークやオンライン授業への対応に追われる私たち。もはや睡眠と移動時間以外は「ター」と顔を突き合わせる日々、手元の文字が見づらい、近くのものに焦点が合わない…。と、若年層でも「スマホ老眼」と呼ばれる現代的な眼の脅威に晒される事態に陥っている。

メガネが、「コンタクトレンズが、レーシック手術か。視力矯正と言えはこの3つがポピュラーだが、近年ではもうひとつ、有力な選択肢がある。最近、よく耳にするようになったICL治療は、眼球内の虹彩と水晶体の間に小さなレンズを入れて「裸眼」の視力を回復させる方法のこと。よく聞くとレーシック手術を思い浮かべるが、何がどう違うのか。

次ページでは、実際にICL治療を提供するふたりの認定医にインタビュー。ICL治療について、分かりやすく解説いただいた。春の新生活に知っておきたい情報、ぜひそくの中画で。

My Favorite Life Style

「見え方の質」が大きく変わる。 ICL治療で手に 入れるリアルな視界。



大内 雅之 先生

大内雅之アイクリニック 院長(京都府)
東京慈恵会医科大学卒業後、京都府立医科大学眼科学教室に入局。公立南丹病院眼科医長、京都府立医科大学大学院、同大学客員講師を経て、2018年大内雅之アイクリニック開設。
「担当医の顔が見える医療。術前から術後まで執刀医による一貫した診療」にこだわる。特に眼内レンズ手術に関して、関西では突出した講演、論文実績があり、指導的立場で臨床にあたる。国内・海外での受賞歴多数。日本眼科学会認定眼科専門医。北海道大学非常勤講師、東京医科歯科大学特命教授、日本眼科手術学会 理事、日本眼内レンズ屈折手術学会 理事、日本眼科手術学会白内障部門プログラム委員。



大島 佑介 先生

おおしま眼科クリニック 院長(大阪府)
大阪大学医学部卒業、京都大学再生医科学研究所(国内留学)、大阪大学大学院医学系研究科にて医学博士を取得。大阪大学医学部眼科学教室・眼科講師、西葛西井上眼科病院副院長を歴任。その間、国際学会で数々の手術ライブや講演で高い評価を受け、2014年高槻市に「おおしま眼科クリニック」を開設。2015年医療法人聖佑会グループ理事長就任。現在大阪府下に3つのクリニックを統括。眼内コンタクトレンズ(ICL)手術や多焦点白内障手術を含め、年間約2,500例の日帰り手術を執刀。日本眼科学会認定眼科専門医。米国網膜専門医学会日本代表、中国南開大学医学部客員教授、京都府立医科大学眼科非常勤講師。

2人の専門ドクターが解説する「ICL」眼内コンタクトレンズの利点

新時代の視力矯正法として注目を浴びるICL治療。手術で裸眼時の視力を取り戻すと聞くと、レーシック手術を思い浮かべるが、何が違うのか。そこで、ICL認定医である大内雅之先生と大島佑介先生にインタビュー。ICL治療の概要や実績、素朴な疑問や実際に治療を受けた患者の感想なども含めてお話をうかがった。

大内 最近はメガネでも見かけるようになったICL治療ですが、実際に治療件数も増えてきていると聞いております。まさに新時代の治療法という趣ですが、実際にどんな方がICL治療を受けておられるのでしょうか。

大島 まずマスクを着けていると曇って見えない「手入れが面倒」などメガネやコンタクトレンズの使い勝手でお困りの方が多いですね。そのほか、たとえば子育て中の方なら夜中にミルクを与えるたびにメガネを探すのは大変ですし、耳が不自由な方がコンタクトレンズをなくすとあらゆる情報から遮断されることになりませんか。意外に深刻な話でもあるんです。

大内 強度近視でのメガネ着用は想像以上に視界が狭まりますし、コンタクトレンズでは刺激によるドライアイやアレルギー性結膜炎にお悩みの方も少なくありません。また、乱視が強いノンフトコンタクトレンズによる矯正効果が限定的になりますので、見え方のものご不満もよく耳にします。

大島 現在のところは25〜35歳くらいの社会人の方が目立ちますね。中でも医師や看護師、美容師、消防士といった専門職の方が少なくありません。一般的なオフィスワーカーや銀行マンの方では45歳前後まで幅広い年齢層でニーズがあるようです。また、25歳以下の若い年齢層では大学生や大学院生の方が多いように感じます。男女比はほぼ1:1の比率で女性がやや多い印象ですね。

大内 当然でも傾向は同様ですね。研究職の方も多く、職業意識の高い方が20代前半の早い時期に自己投資として手術を受けるケースも見られますが、一方で、意外に中年の方も結構いらっしゃいます。将来的に老眼鏡より、今の適用メガネで活動性を下げたくないからという声。

大島 学生も多いというのは少し意外ですね。
大内 卒業する直前に来院される方が多いですね。社会に出る準備として親御さんがサポートして下さっているようです。

大島 特に医学生の場合は、職業的に将来の当直勤務のことまで考えて決断された方もおられました。また、一時帰国中の海外留

大内 パソコンやスマホの画面に向き合う時間が長くなり、眼やピントを合わせる筋肉に負担をかけている方は確実に増えていてと思います。病院で視力を検査した際の数字以上に、日常の実用視力が低下している可能性もあります。

大島 特に学生さんの場合、ただでさえWEBサイトや配信動画を見る時間が長くなり、さらに、リモート授業も始まりまして、たからね。長時間の画面作業でまばたきが減少し、日常的に眼精疲労をお感じの方も多いたくはす。

大内 そこで今回お話ししていたICL治療ですが、これはどんな治療法なのでしょうか。

大島 ICLとは、インフラタブルコンタクトレンズの略称です。日本語で眼内コンタクトレンズという名前の通り、一般のコンタクトレンズと同じ動きをするものを目の中に入れて視力を矯正する治療法です。

大内 眼内というきれいな環境の中に挿入するので、レンズを洗うなど日々のお手入れの必要はなく、長期間安心して使用することができるといった大きなメリットがあります。その代わり、自分の視力に合ったレンズが必要となるので、事前の検査がとても重要になるわけです。

大島 近視手術と聞く「レーシック手術」を思い浮かべますが、ICL治療はレーシック手術とは異なる、目の表面の角膜をレーザーで削り、形状を変えて、またく視力を矯正する治療法です。ICL治療は強度の近視や、レーシック手術が難しい近視や、遠視、乱視、老眼など、幅広い視力矯正が可能です。その代わり、自分の視力に合ったレンズが必要となるので、事前の検査がとても重要になるわけです。

大内 レーシック手術は目の表面の角膜をレーザーで削り、形状を変えて、またく視力を矯正する治療法です。ICL治療は強度の近視や、レーシック手術が難しい近視や、遠視、乱視、老眼など、幅広い視力矯正が可能です。その代わり、自分の視力に合ったレンズが必要となるので、事前の検査がとても重要になるわけです。



乱視には適用できない場合があるのですが、それ以前に角膜の形状が変わってしまうので、場合によっては将来の白内障の手術に支障を来すこともよくあります。

大島 レーシックは度手術をするのと角膜形状を元に戻せませんが、ICL治療の場合、眼内に入れたレンズを取り外せば、眼を元に戻せることが大きな特徴となります。また、ICL治療はレーシックと違い、術後にドライアイを引き起こしにくいことも大きな利点と言えるでしょう。

大内 一般的な方に向いているので、どんな方にも向いているので、お勧めです。例えば、コンタクトレンズを長時間しづらいつい夜間勤務の多い看護師や消防士、警察官などの専門職の方には特に適しているのではないかと感じます。もちろん、長時間のPC作業が多いオフィスワーカーの方も。

大内 女性の場合は化粧や服装との兼ね合いでメガネを着けたい方も、ICL治療は元に戻せるので、ICL治療はレーシックと違い、術後にドライアイを引き起こしにくいことも大きな利点と言えるでしょう。

大内 検査で手術可能と分かた方なら基本的にはどなたもお勧めですが、例えば、コンタクトレンズを長時間しづらいつい夜間勤務の多い看護師や消防士、警察官などの専門職の方には特に適しているのではないかと感じます。もちろん、長時間のPC作業が多いオフィスワーカーの方も。

Biz Life Style Pick up

レーシックより歴史が長く安全性も確立された治療法
眼内コンタクトレンズ(ICL)

1. 点眼薬で麻酔後、角膜の縁を約3mm切開します。

2. 切開創からレンズを眼内に挿入します。

3. レンズを虹彩と水晶体の間に配置されるように調整します。レンズは目の中で自然になじみ、近視を治療します。(レンズは虹彩の下に配置されるので肉眼中では見えません。)

大内 術後2日目からは通常の生活に戻ることができ、術後の経過は翌日、1週間後、1ヶ月後、3ヶ月後、半年後に見せていただきますが、点眼は最初の1ヶ月だけで、以降はメンテナンスフリーになります。

大島 術前術後で特に注意しなければならぬ点。

大内 副作用や合併症についてよく聞かれますが、リスクがゼロとは言いませんが、ICL治療は合併症が極めて少ない治療法と言えます。もちろん、その極めて低いリスクも避けるために、メガネやコンタクトレンズを避げるのもひとつの判断となりますので、じっくりと検討いただきたいですね。

大島 手術である以上、リスクは決してゼロではありませんが、ICL治療に精通した認定医に

手術ではリスクは限りなく少ないと思いがちですが、やはりICL治療にもリスクがあります。やはりICL治療を取り戻せることは何ものにも代えがたいものがありますから、勇気を出して踏み出そうとする方々のために、私たち認定医は常にベストを尽くしています。

大内 やはり視界がクリアになると驚く方が多いです。ご家族やご友人に勧める方も多いたくはす。満足度を表しているのではないかと感じます。

大島 当日でもそのような紹介が多いですね。また、ICL治療を受けた方の術後の感激を自分の子に伝えたいという声も聞かれます。実際に手術に至った例も少なくありません。気になる方は、認定医にご相談ください。

My Favorite Life Style



その瞳に映る「人生の光景」を
 変える出会いになるかもしれない
 ICL治療=眼内コンタクトレンズ治療。
 安心して受診するためには
 「6つのステップ」のチェックから。

注目度が増す「ICL治療」のアウトラインと利点が把握できたところで、このページでは、実際にICL治療を受ける流れについて確認しておこう。

現在75以上の国と地域で承認を受けているICL治療は、我が国では2010年に厚生労働省から承認を取得している。すでに10年以上の歴史を積み上げている治療法ということになるが、その分、医療現場を受け持つ認定医とクリニックの対応も洗練されてきている。次世代の視力矯正法という意識で実際に受診すると、実はすでに身近なものであることを実感する。

ICL治療は、手術時間がとても短い。その分、本誌中面でご登場いただいた先生方も口を揃えて言っていた通り、術前の適応検査が手術の成否を大きく左右する極めて重要なステップである。また、人によってはレンズを入れるスペースが狭すぎることもあるため、希望すれば必ず受けられるというわけではない。視力だけでなく、目の形状や状態、生活習慣などを総合的に検討して、治療が可能かを診断することになるわけだ。

手術が可能と判断された場合は、次に度数を決定する。生活スタイルに合わせて術後の視力を見定めつつ、手術や治療について気になることがある場合は遠慮なく質問し、ここで解決しよう。手術は両眼で15〜20分ほどと短時間で、もちろん日帰りOK。翌日に検査を行った後は、1週間後、1ヶ月後、3ヶ月後、半年後、1年後と定期的に検査を実施する。

治療後約1ヶ月前後は点眼が必要となるが、術後一、二日では一般的な日常生活に戻るることができる負担の小ささも利点。治療は概ね以下の6つのステップで進行するので、頭に入れておこう。

Biz Life Style Pick up >>> ICL手術 6つのステップ 初診から手術、アフターケアまでの流れ

<p>① 初診</p> <p>眼の精密検査を実施。ICL手術の内容や手術の注意事項について丁寧な説明を受ける。</p>	<p>④ レンズのオーダー</p> <p>検査結果をもとに専用のレンズをオーダー。乱視用など種類によっては時間がかかる場合もある。</p>
<p>② 適性検査(2回)</p> <p>コンタクトレンズの方は装用を中止して検査。装用できない日数は種類によって変化するので指示に従う。</p>	<p>⑤ 手術(片眼 約10分)</p> <p>基本は両眼同日の手術で、15〜20分ほどで終了する。希望によっては片眼ずつ日を分けて受けることも可能。</p>
<p>③ 手術日程の決定</p> <p>手術の日程を調整。概ね1ヶ月後の手術となることが多い。</p>	<p>⑥ 術後検査</p> <p>術後も定期的に検査を実施。原則として翌日、1週間後、1ヶ月後、3ヶ月後、半年後、1年後に受ける。</p>

※クリニックによって、異なる場合がございます。



今回で協力いただいたクリニック

おおしま眼科クリニック <https://www.oshimaganka.com/seiyukai/>

本院住所: 〒569-0055 大阪府高槻市西冠1丁目12-8

中面で話を伺った大島佑介先生が統括する『おおしま眼科グループ』は、ICL治療のほか、多焦点白内障手術や網膜剥離の手術などを含め年間約2,500例を超える日帰り内眼手術を実施している眼科手術の専門集団。大島院長は自施設での日々の診療のほか、国内外から手術ライブや教育講演に招かれる世界的に有名な眼科手術のスペシャリスト。Best Doctor of Japanに4期連続で選出されており、自ら治療の最前線に立つと同時に、後進の指導でも多忙な日々を過ごしている。

大島院長にとって、クリニックはあらゆる経験と技術の蓄積の場でもある。手術成績の品質を保証するために、術前の検査から術後の看護ケアまで、各部門の担当スタッフもスペシャリストを揃え、診療体制の高いクオリティに対する評価も高い。高槻市には本院のほか『おおしま眼科宮田町クリニック』、八尾市に『おおしま眼科池本クリニック』に加えて今夏には松原市に『おおしま眼科松原クリニック』も開院予定となっている。

もしかすると、人生の光景を変える出会いになるかもしれない。

